

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「サークルKサンクス、スーパーとの価格差を5-10%以内に」
- 2) 「ローソン、ホームコンビニエンスを提供」
- 3) 「“赤ちゃんの駅”登録」

1) 「サークルKサンクス、スーパーとの価格差を5-10%以内に」

サークルKサンクスの中村元彦社長は1月1日、年頭あいさつで、顧客ニーズの変化に対応した売場作りに向けて品揃えを大きく変え、「標準型」「FF強化型」「ミニスーパー型」の新店舗フォーマットの確立を急ぐと表明した。

攻めの投資を行い、既存店の新什器や設備を早期に導入し、「Style ONE」の雑貨商品を強化して消費の2極化に対応するほか、2年をかけてスーパーとの価格差を5-10%以内に近づけるとしている。

また、時報を使用したユニグループ・ホールディングスとしてのラジオCM、シェリエドルチェ・チルド弁当のテレビCM投入など、広告宣伝も強化してブランド向上を進める。

今後はグローバルな事業展開を考え、世界へ向け「Circle K」ブランドのイメージ向上を図るとしている。

2年は少し長いような気がするが、突出する大手コンビニに逼迫する意気込みを感じる。グループ力を生かした取り組みには注目していきたいと思う。

2) 「ローソン、ホームコンビニエンスを提供」

ローソンは1月4日、新浪剛史社長の年頭あいさつで、ホームコンビニエンスを提供すると公表した。

ホームコンビニエンスは、インターネットを活用したショッピングが拡大により、近い将来、自宅にいながらありとあらゆる買い物ができるサービス。

今年、ヤフーと一緒に「スマートキッチン」開始も、ホームコンビニエンスのひとつで、忙しいお母さんへ、スマートフォンの簡単な操作だけで品質の良いものを届ける。

スマートフォンやタブレットなどITのインフラが整ってきたことによって、新たなマーケットが急速に拡大してきた。このニュースはスーパーとコンビニエンスの垣根を飛び越えた例だが、今後まだまだ新しいビジネスは生まれてくるだろう。

3) 「“赤ちゃんの駅”登録」

防府市は、育児中の保護者が授乳やおむつ替えを気軽にできる公共、民間の施設を「赤ちゃんの駅」として登録し、PRする取り組みを始めた。

赤ちゃんの駅は囲いを設けるなどして保護者が人目を気にせず利用できるよう配慮し、おむつ交換台などを常設している施設。登録制にすることで、保護者に利用できる場所をPRし、外出しやすい環境を整える。市は本年度中に公共施設やスーパーなど約20カ所を登録する考えだ。

赤ちゃんの駅自体は全国的に広がっている取り組みのようだが、特に意識をしていなかった
ので実際に目にしたことはまだない。赤ちゃん連れのお母さんのみだけではなく、一般の人
にも多く目に触れるようになれば、もっと理解が増えて子連れでも行動しやすい世の中
になっていくのではないかと思う。